

### feature interview

# DJ KEN-BO

「ホントに基本の部分でスタンダードなパーティーを目指したい」と語るDJ KEN-BO。改めてプロ意識の高さを感じるインタビューとなった。

■ “The Finest” が2周年を迎えますが、当初から常に心掛けていること、最近気にしていることはありますか？

在り来たりな言い方だけど、やっぱり“金曜日”ということ、HARLEMでやることは何でしょう”ということを考えて、その時その時に思っている自分なりの考え方を反映していく事を第一に考えてるのは初めからずっと変わらないことなんだけど。ベタなことを言うと、クラブでやるDJっていうのは選曲家だと思うワケ。だけどもFMやTV地上波とかで何の縛りも無く選曲してる人とかとは違うと思うのね。もちろん凄い人もいるけど。でもCM作ってる広告代理店の人とかは、「こういう商品にはこの音楽をこういう考えでつけてるんです」みたいな、凄く難しいし感覚的な仕事だと思うわけ。そういうのって、今も見えてなきやいけなし、昔も知ってなきやいけなし、プラスその商品っていうのをいかに理解しているかっていうのも必要だと思うし。クラブDJって、そういうことをしているって意味ではオレ的には同じじゃないかなって。

例えば、商品はお客さんで、箱が会社のイメージで、そこに合う曲を当てはめていくみたいな。CMソングっていうのは、頭にループしやすいものが多いし、あえて中毒性のある曲を使ってるってところが作ってる人達は頭いいなと思いますね。だからDJも「こういうお客さんでこういう雰囲気だ」という曲って考えてやるのは変わらないと思うのね。FMとかテレビとかは、流行ってる曲をかけてるだけって所もあるけど、CMなんかはタイアップでお金も絡んでくるし「これはしちゃダメ、あれはしちゃダメ、こういうのがいい」みたいな要望が多い中で曲を出すわけじゃない。それは、自分の持っている音楽の幅の中で「こういう箱でこんなことしちゃいけない」とか、お客さんを見て「こういうことはしちゃいけない」みたいな縛りがあるのと凄く似てる気がする。ただ単に流行ってる曲とかだけでワーッとやるだけじゃダメなわけじゃない。だから、音楽の幅とかも大事だとと思うし、HIP HOPのDJだからってHIP HOPとかR&Bだけしか聴いてない人もいるかもしれないけど、音楽を広く知ってる人の方が多いと思うし、そうであって欲しい。動機は色々だろうから一概には言えないんだけど、音楽が好きだからDJをやってるんだって、音楽の幅のある人間になると思うし。あと、絶対に人付き合いが良くないとダメだと思うんだよね。クラブDJって。DJであり、ホストであり、接客するのがあっていい部分は間違いないですよ。そういうのができないとクラブDJはできないですね。究極言っちゃると、お客さんが踊れば勝ちだけど、雰囲気ってものを作っていく中で、まわしてる人達の持っている雰囲気とか個性とかが左右する部分もあると思うの。

■レギュラーDJという使命感はありますか？

あんまりない。無駄に使命感とか背負っちゃって面倒くさい(笑)。結局は、自分が楽しくないと楽しくないんで。使命感に追われてる時って、やってるうちに息苦しくなっちゃったりするし。自分もバカになって楽しくてお客さんと波長があってDJしてる時って、あっという間に時間が過ぎる。そうなった時って自分も凄く上手くやれてる時だと思ったり、お客さんも楽しんでくれる時だから、そういう部分を感じたうえで皆で盛り上がるのって普遍的なものだと思うんだよね。音楽は変わっていくけど、気持ち的な根底にあるものってのは変わらない。音楽を深く聴いてきてる人だったら、音楽のトレンドみたいなものに対して「今はこういうトレンドだからこういうアゲな曲が作られてる」という風に、そういうものに多少は耳を傾けていかなきゃいけないと思う。そういうのを解っていれば、「次はこういうのが来そうだな」とってのも自然と予知できるようになる気がするし。

やっぱり音楽とか色んな流行りってのは繰り返してるから。今までは順繰り順繰りきてたんだけど、それがだんだん変化球になってきてるというか。

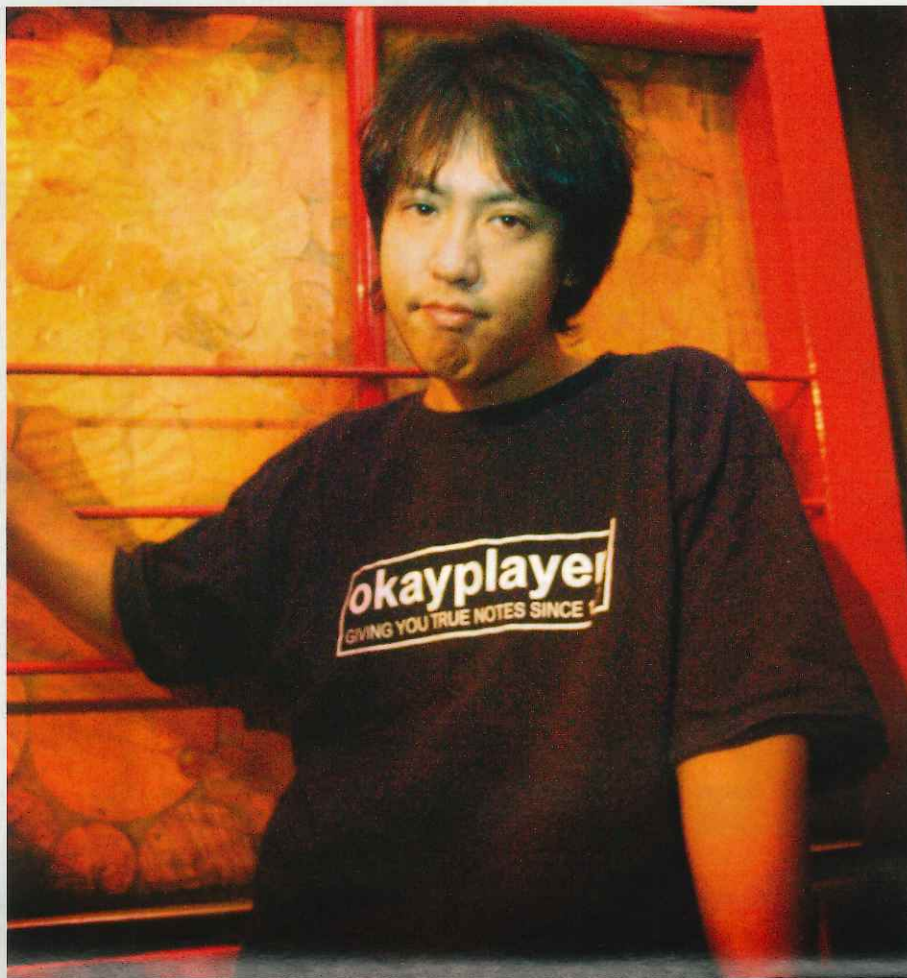
あと、日本人は英語が解らないし、昔はそこまでHIP HOPの知識が無かったからそういう聴き方はしなかったけど、最近の場合は「このラッパーはこういう所が凄くて、こんだけ人殺してて…」って分かるわけじゃないですか。そういう所が良くて、しかもリリックを理解したうえで「コイツ最高！」って聴き方をする人が増えてるでしょ。そういうので50CENT、GAME、CASSIDYとかがウケるのは当たり前だし。だから、音楽だけじゃなく、その音楽をやってる人のバックグラウンドを直に反映してるものがウケてる気がするんですよ。文化的な部分は。一般的な部分は、クラシックR&Bだったりのノリ、アゲみたいなとかレゲトンとか。レゲトンは、FAT-JOEとかJ. Loのヒスパニック系の人達がワーッと出ていった勢いをそのままに、DADDY YAN-KEE、DON OMAR、TEGO CALDERONとかが出て来て、TONY (TOUCH)もReggaetony Albumとかも出しちゃって(笑)。そういう流れとかもあるしね。結局、全部色んなものが繰り返してるんだけど、色んなところでそれが行われてるから、一本の大きな川じゃなくて色んな支流がたくさんあって、それぞれがいろんなサイクルで交ざり合ったりしてるような気がするんですよ。

■それが意味HIP HOPですよ？

そう。前はもっと素直な感じだったんですけどね。それがだんだん複雑になっていく分、複雑になってきてる。反面、凄く単純なものってのは、痛快なまでに単純だったりするんじゃないかとも思うし。ロジカルに今の感じを言うとしたら、そういう感じですかね。でも、皆が皆そういう聴き方をするととは思わないけど。そういう聴き方をするのが好きな人もいますし、ただ直感で「いいじゃん」って聴いてる人もいますし。でもホントはそれでいいんだよね。だから問題は“そこ”なんだよね。そこってのはマニアックになり過ぎて「新譜つまんねー」っていうのにつながるってうかね。シンプルに「いい」っていう部分をもっと大切にしたいですよ。音楽をずっと聴いてると、頭でっかちになっていっちゃうから。でも、それは遊んでる中で聴いたり感じたりできるものを知ることによって、ずっと保っていききたいというか保っていらてることだと思うし。

■毎週やってると、毎週来てるお客さんがいる一方、毎週新しいお客さんが来るという状況ですが、そのギャップの埋め方や気の遣い方はありますか？

難しいですね(笑)。やっぱり何かしら「今日はこういう風にやろうかな」というのは見出せるようにしたいとは思ってます。新譜は普通に生活してれば自然と耳に入ってくるからいいんですけど、古いものに対してですよ。古いものも、かけすぎると効果が薄くなるから、よくかけたものはもうちょっと寝かしておいてからまたかけるとか、そういうことをしなきゃいけないじゃないですか。街とか歩いて、たまたま流れてた曲があれば「この曲聴くの久しぶりだなー。これかけようかなー」という、そんなレベルなんですよ。テレビで使ってる曲があれば「あーこれかけようかなー」みたいな。そんな単純なところから、例えばLUTHER VANDROSSが死んじゃったからLUTHERをかけようみたいな部分もあるし。その時その時、普通に生活している中で入ってくる音楽は自分なりに入れていこうとは思ってます。あとは、新譜で出たものに、「こういう所からこう行きやすいな」という感じで古いものをかけていくこともあるし。色んな所からとっかかりを捕まえてきますね。それがいつもと変えることができるコツかな。同じになっちゃう部分



もあるけどアレンジを利かすには、その曲から何ヶ所行き先を持ってるかとか、最終的な行き先は2ヶ所か3ヶ所かもしれないけど、間にどこを経由して行くのか、そこまでの中継点の数が多くなればなるほどいいんじゃないかと思えますね。

■DJ WATARAIが加入して1年になりますが、何か刺激になりましたか？

お互い相手が何かをやったら「オレはこういう風にやろう」とか、そういうのがあるし、そうじゃないと面白くないし。WATAさんはオレのことを理解してくれてると思うんだよね。まあ、理解してくれてるのは、昔からオレの根底にあるものは変わってないからだと思うけど、昔一緒にやってる時からWATAさんも変わらないから理解してくれてる部分が多々あると思うし。まあ、やり易いんですよ。信頼できるし。なんで、これからもよろしくお願いします(笑)。

■初めて遊びに来てどうやって楽しんでいいか分からないというお客さんへ何かアドバイスは？

お客さんが沢山入ってる状況の中に来てくれた方が、初めて遊びに来た人は入りやすいと思うんだよね。だから、お客さんが常に沢山入っているようなDJをオレらがしていくしかないのかな、というのが結論。やっぱりフロアに人がまばらにしかないような状況で初めてクラブに来たお客さんとかは何していいか分からなくなっちゃうと思う。だから、オレはそういう状況を作らないようにしていかなくちゃいけないだろうし。あとは、一回友達とどこかで飲んで、調子をアゲてから来るか(笑)。そういうことをすれば楽しめると思う。やっぱり楽しみに来てるとか、楽しい時に自分がどうしてるかっていうところで動けばいいんじゃないかな。音楽が好きでクラブに来てるとか、「この曲いいな、楽しいな」とか思ったら動けばいいし、踊ったり飲んだりしたらいいんじゃない、という感じですかね。それに、自分がオープンな時ってのは人とも知り合いやすいだろうし、色んな人がいるから騙されちゃいけないとは思いますが、ある意味勉強ですよ。クラブには色んな人がいるし色々あるけど、困ったことがあったらスタッフの人に言ってくれば大丈夫だし(笑)。

■今後、“The Finest”の進むべき方向は？

いい意味でスタンダード感を出していきたいかな。変わったことをしてるつもりはないから、HOUSEとかかけてる時も変わったことしてるつもりはないし。大前提として、HIP HOPってのは色んな音楽を吸収してきてもんなんだ、それがかかっている箱で、週末盛り上がる所だったら、そういう部分でどういう振り幅でどこまで行かっ

ていうのはDJ次第でもあるけど、その中で「週末ってこういう感じですよ」というのを打ち出してあげたらいい。

例えば、海外から来た人とかがいたとして、「The Finest」を楽しんでもらって、東京って感じだなって思ってくれたりしたら嬉しいよね。帰って「あれって東京の感じだな」って思ってくれたり「HARLEM来たたら東京に来た気がするよねー」って思われるようなパーティーにしたい。それは、SHOWTIMEがあったりどうこうでっていう複雑で細かいものじゃなくて、いい音楽がかかって、いい空間で、いいお客さんがいて、楽しくて、っていうホントに基本の部分でスタンダードなパーティーを目指したいですね。その中で変わったこととかいうか、実験的なことはしていきたくらうけど、それは奇をてらってるわけではないんです、っていう話です。極端なものにはなりたくない。いい意味でバランスとってる、だからスタンダードであり得る、みたいな感じのパーティーでいいです。平日のイベントとかは変わったものとか突出したものがあった方がいいのかもしれないけど、週末はいい意味でスタンダードなものにしたいですよ。

■制作に関しては？

色々考えてることあるんですけど、言うとお客さんにやられちゃったらイヤだなと思ってる(笑)。やっぱり自分名義の制作物は出したいけど、考えがしつかりとまって、作るべきものができて…。となったら動きたいですよ。制作物のリリースってノリだけでやっちゃうとダメだと思うんですよ。俺的には、まあ、やっちゃうとダメってわけじゃないですけど、ノリでやるよりも色々見極めてやりたいなと思ってる。なので、来年には何か出したいと思ってます。でも焦って出すんじゃなくて自分なりのタイミングで、いいなと思った時にしたいです。

■最後に、読者に一言お願いします。

人はだんだん歳をとっていくので、「The Finest」も2周年を迎えるわけですが、いい意味で変わらないし変わらないのでこれからもよろしくです。あとは、風営法とか色々あって大変だけど、遊びに来てくれる人達も夜遊びすることに対して「楽しいから夜遊びしてるんです」という意志を何かしらの形で示すべき時期なんじゃないかと思うので。クラブが悪の根源みたいな変なイメージをマスコミとかは付けたがるけど、やっぱりクラブに来ている人達がクラブは楽しいものだっていうのを伝えるというか、誇りを持ってクラブ遊びして欲しいですね。そのかわり次の日仕事は休まずに行かなくちゃダメですけどね(笑)。